

2. 家庭養育機能と職業生活の両立に関する研究

③ 子育てと仕事の両立を図るための父性・母性の役割

愛育相談所	千賀 悠子
母子保健研究部	堀口 貞夫
愛育相談所	川井 尚
児童家庭福祉研究部	庄司 順一

<要約>

目的と内容：子育てと仕事の両立を図るための親側の要因を分析する。本年度は第一に、夫婦の協力程度と、親の心理的安定・親の自尊感情・子どもに対する感情などについてその相互の関係を検討し、仕事と家庭を両立させている要因を質問紙法にて調査する。第二に、父性・母性を父親および母親の心理的な態度としてとらえ、その父性・母性はどのようなイメージでとらえられているか、現代の父性と母性の動向を調査する。この内容は、① 昔の父親・母親にどのようなイメージを持っているか ② 自分自身をどのような父親・母親イメージとしてとらえているか ③ 将来、志向する父親・母親イメージはどのようなものか ④ 日本の社会が期待している父親・母親のイメージはどのようなものか、この4群についてそれぞれ30項目（同項目）・7段階スケールの評定尺度で測定した。

対象：地方都市を含む都市近郊の10カ所の保育園に調査を依頼した。回答数は420例（420家族）。
結果：① 夫の協力程度は、母親の心理的安定・自尊感情・子どもに対する感情などに影響を及ぼしており、母親が子育てと仕事を両立させていくには、夫の子育ての協力程度が重要な要因であることが認められた。② 志向する、あるいは社会が期待する母親イメージと昔の母親イメージには、共通する因子があり相関が認められた。③ 自分自身の父親イメージには共感性・受容性の因子が認められ、昔の父親イメージとは異なっている。④ 昔の父親イメージを除いた他の父親・母親イメージには養育性・受容性の因子が抽出され、共通する因子が存在することが認められた。

<見出し語>：子育て、労働、父性、母性、養育性、受容性

Investigation of Fatherhood and Motherhood consisting with parent's child care and working

The purpose of this paper was to analyze the factors consisting with parent's child care and working. First, we investigated the relations between the degree of cooperation of a couple and psychological stability, self-esteem and feeling for children of a parent, and so we analyzed the factor. Secondly, we investigated the tendency of Fatherhood and Motherhood today. We inquired them 30 items expressing a parent image on 7 grade scales. Four inquiries about father's or mother's image were made, ① What image do you have about father or mother before? ② What a parent image do you have about yourself? ③ What a parent image do you have to become in future? ④ What a parent image expected in society of Japan? The questionnaire was developed and collected from 420 families, these family's children go to nurseries. Results: 1) The factor consisting with parent's child care and working related to the degree of cooperation of father. To a degree of father's cooperation related to mother's psychological stability, self-esteem and good feeling for children. 2) We saw, that there were some similarities between the mother's image to become infuture /to expected in Japan and the mother's image before. 3) In the father's image about yourself was found the factors of sympathy and acceptance, and this image was distinguished from the father's image before. 4) We saw some common factors in Fatherhood and Motherhood except for father's image before, these factors were upbringing and acceptance.

KEY WORDS: Child care, Working, Fatherhood, Motherhood, upbringing, acceptance.

I 目的

子育てに関する意識調査は近年多数報告されている。この研究では、家庭養育機能の中で常に重視されてきた父性・母性の動向と役割の変化などについて、子育てと仕事の両立を図るという視点から、実証的な検討を行うこととした。

今年度は、乳幼児をもつ親を対象にし、次のような調査研究の枠組みを設定した。第1に、子育てをしている時の親の子どもに対する意識や感情、親として・個人としての充足感、夫婦の協力などについて調査をし、仕事と子育てを両立させている要因を検討する。第2には、親の役割や態度・行動の要因を形成するといわれている〈母親及び父親イメージ〉について調査をし、父性・母性を心理学的な態度・行動面で捉え、現代の父性・母性の動向を探る。

II 方法

1 質問項目の設定

(1) 子育てと仕事の両立の意識について、及び子育てをしている時の意識や感情について

子育てと仕事の両立の意識についての質問と、子どもに対する気持ちや親としての充足感、そして生活の中の個人としての充足感などに関して、以下6項目について質問を設定した。

①お子さんと過ごしている時の気持ち

14項目について〈非常にそう思う〉から〈非常にそう思わない〉までの7段階スケールで質問。

②子育てをしていて、母親である自分をどのように感じているか。*調査法は上記と同じ。

③子育てをしている現在についてどのように思うか。〈満足している〉から〈満足していない〉の4段階スケールで質問。

④夫あるいは妻との話し合いや協力についてどのように思っているか。〈満足している〉から〈満足していない〉の4段階スケールで質問。

⑤現在の暮らしの中での自分自身についてどのように感じているか。

10項目について〈非常にそう思う〉から〈非常にそう思わない〉までの7段階スケールで質問。

⑥子どもが好きかどうか

〈満足している〉から〈満足していない〉の4段階

スケールで質問。

なお、上記の項目作成に当たっては、青木まり¹⁾大日向雅美²⁾柏木恵子³⁾の質問項目を参考とした。

(2) 父親及び母親イメージについて

親の役割に対する態度・行動の要因を形成するといわれている〈父親及び母親イメージ〉を検討し、現代の父親そして母親の父性・母性を心理学的な態度・行動という面にとらえ、現代の父性そして母性の動向を探ることを目的に質問項目を以下のように設定した。

①『昔の母親または父親イメージ』

あなたは昔の母親または父親にどのようなイメージを持っていますか。

②『母親または父親としてのあなた自身のイメージ』

あなたは現在、自分自身をどのような母親または父親だと思えますか。

③『将来、志向する母親または父親イメージ』

あなたは将来、どのような母親または父親になりたいですか。

④『社会が期待する母親または父親イメージ』

現在、日本の社会(世間)ではどのような母親または父親を期待していると思えますか。

*上記4つ内容の母親または父親のイメージに用いた項目は30項目で、項目内容及び配列も同一である。各項目について7段階スケールで質問した。

*調査対象者が母親の場合は、上記の4つの母親イメージについて、調査対象者が父親の場合は上記の4つの父親イメージについて回答する。

なお、質問項目の作成にあたっては、山口素子⁶⁾、Cook, E. P⁷⁾のfemininity, masculinity尺度、河合隼雄⁸⁾のいう母性原理・父性原理を構成する要素、

E. Barnの交流分析に用いられている父親特性、母親特性、大人特性(成熟性、理性、客観性)、子ども特性(活性化要素)を参考とした。

2 対象

都市近郊の市町村の保育園で下記の10カ所。

岩手県-1保育園(101部)、山形県-1保育園(60部)、埼玉県-1保育園(120部)、東京都-1保育園(50部)、神奈川県-1保育園(140部)、鹿児島県-2保育園(100部)、沖縄県-3保育園(150部)、計720部を送付。

3 調査方法と実施期間

上記の保育園に、各家庭に父親・母親用の調査票の配布を依頼した。父子・母子家庭の場合は父親用あるいは母親用のいずれかの調査票を配布した。記入済のアンケートは封緘をし、期日までに保育園の所定の箱に投入してもらう。調査期間は配布してから10日間である。

III 結果

1 集計の結果

(1) 集計の対象

回収数は420例で回収率は58.3%であった。ただし父子・母子家庭を含むので、父親の集計対象数は380例、母親の集計対象数は418例である。

統計的分析のために、無回答あるいは不適切な回答のものは無効数として非該当とした。

(*) 非該当としたものは次の通りである。

- ・無回答
- ・単一回答に対し重複回答
- ・選択肢以外の回答
- ・回答はされているが、関連のある質問にすべて回答していない場合は

(2) 対象の属性

① 家族構成

核家族が76.4%を占め、父子家庭は2例で母子家庭は40例である。

② 対象の年齢

母親の平均年齢は32.8歳である。年齢分布は21-49歳で、25歳-34歳の分布が61%である。父親の平均年齢は35.4歳である。年齢分布は22-56歳で、30-39歳が63%である。

③ 学歴

母親の学歴は高卒が最も多く43.5%で、次いで専門学校・短大卒34.2%である。

父親の学歴は高卒が最も多く38.2%で、次いで大卒が32.1%である。

④ 仕事の有無と就労状態

仕事を持っている母親は85.6%で、休職中などは11.7%である。そのうち常勤者は52.5%、パート25.1%である。仕事の内容は、事務-24.9%、専門職(教職、保母、教師、看護婦など資格を持った職業)-24.0%、営業・販売-22.3%である。

(なお、対象の親は保育園を利用しているので、全員が有職であることが前提である。しかし、妊娠中・育児休

業中などの理由で仕事を休んでいる人が含まれている。そしてこれらの親達は一時保育など何らかの形で保育園を利用しているので調査に含まれたのである。今回の分析に際し、現在休職中などの理由で仕事をしていない群と仕事をしている群について、すべての項目に関して統計的検討をした結果、有意ある差異が認められなかった。今回は休職中の人も集計対象に含めた。))

父親の78%は常勤者である。仕事の内容は営業・販売-25.9%、専門職(教師、資格を持った職業)-21.7%、技術・技能職-17.4%、製造業-12.5%、事務職-10.3%である。

⑤ 子どもの人数と子どもの年齢

子どもの人数は、子ども1人が31%、2人が42%である。子どもが2人以上の場合でも、子どもは0-6歳の年齢分布のいずれかに属している。

⑥ 対象の属性について

集計対象の属性は、地方の都市近郊あるいは東京ベッドタウンに住み、乳幼児を持つ共働きの親であり、多数が被雇用者である。年齢・学歴・家族構成、そして子どもの人数や子どもの年齢なども類似している。だが、父母の職業の職種の内、資格を持った職種の割合がそれぞれ22%と24%と多いことが特徴であるが、他には特記すべきことは見いだされなかった。

2 <子育てをしている時の意識や感情について>の結果

(1) 子育てと仕事

『今後も子育てと仕事を両立させてやっていく』という母親は非常に多く73.2%であった。子育てに専念し専業主婦になりたいという母親は10例で2.4%。

父親の場合は、『仕事に影響を及ぼさない限り家事・育児を協力しあってやっていく』というのが多く60.0%である。また、『協力しあうが、仕事に比重をおいて』というのが14.5%である。『夫婦で家事・育児を五分五分に協力しあってやっていく』という非常に協力的な父親は少なく15.5%で、父親あくまでも仕事に影響を及ぼさない限りにおいての子育て協力である。

(2) 有意差の認められた属性

対象全体の集計を行い、次ぎにクロス集計などの統計処理を行った。有意差の認められた属性を次に示す。

① 子どもの人数別

子どもの人数が1人~5人においては差異がなかった。だが、1人と2人以上では差が認められた項目

がある。

② 夫（父親）の子育ての協力別

夫の子育ての協力度別に意識や感情について検討し、いくつかの項目で有意差が得られた。

③ 子ども好きかどうか別

子ども好きかどうか別に意識や感情について検討し、多くの項目で有意差が得られた。

上記3つの属性で有意差が認められたが、本年度はこの研究テーマに最も則した属性として『夫の子育ての協力度別』を中心に報告する。

なお、今回の調査では対象の年齢別・職業別及び職種別・学歴別・子どもの年齢別・家族構成別の属性とのクロス集計では顕著な差は認められなかった。

(3) お子さんと過ごしている時の気持ち

① 対象全体 (表I-1-1)

<母親>

子どもと過ごしている時の気持ちでは、『いとおしい』などの肯定的気持ちを表す7項目で、どれも肯定的得点だった。<そう思う>という肯定的割合も多い。

『疲れを感じる』『逃げ出したくなる』『イライラする』『自信がなくなる』『憎らしく感じる』『やっかいな感じがする』などの6項目では、<そう思わない>という否定的な気持ちを打ち消す得点が得られた。だが、その割合をみると『疲れを感じる』が43.1%、『自信がなくなる』-24.5%であった。また、『心配になる』母親は49.4%である。『自信がなくなる』と『心配になる』項目は他の項目との相関が低く、子どもに対する気持ち・感情とは別ものと考えられる。

<父親>

子どもと過ごしている時の気持ちでは、『いとおしい』などの肯定的気持ちを表す7項目で肯定的得点が得られ、<そう思う>という肯定的割合も多い。

『疲れを感じる』など否定的な気持ちを表す6項目では、母親群に比べて<そう思う>という割合は少ない。

② 夫の子育ての協力別クロス集計 (表I-1-2)

<母親>

夫が子育てに協力的でないという母親群(③④)では『いとおしい』『楽しい』『喜び』『一緒にいたい』などの4項目で、<かなりそう思う②・ややそう思う③>という割合が他群に比べ多く、非常に肯定的に思う気持ちの割合が少ない。また、同群では(③④)、『イライラする』『自信がなくなる』という2項目で<非常にそう思う①・かなりそう思う②>の割合が多い。

<父親>

子育てに協力的な父親群(①②)では『楽しい』『喜びを感じる』『一緒にいたい』など肯定的な気持ちを表す3項目で、<非常にそう思う①かなりそう思う②>という割合が多い。また同群では、『疲れを感じる』の項目では<非常にそう思わない①かなりそう思わない②>の割合が多い。

だが、『気持ちがなごむ』『かわいい』という項目では、全体が<非常にそう思う①>が多い中で、協力的でない父親群(④)では<かなりそう思う②・ややそう思う③>割合が多く肯定的に思う強さが低下している。

<小括>

- ・母親・父親ともに、子どもにたいして肯定的な気持ちで過ごしている。
- ・母親では『疲れを感じる』という母親が父親に比べ多く43% いることに留意したい。
- ・夫が子育てに協力的だと思っている母親群では、他群に比べ子どもに対して肯定的な気持ちで過ごしている。
- ・父親が子育てに協力的な群では、他群に比べ子どもに対して肯定的な気持ちを示している。

(4) 子育てをしていて、親である自分をどのように感じているか

① 対象全体 (表I-2-1)

<母親>

『母親であることに充実感を感じる』『気持ちが落ち着く』『生きがいを感じる』『成長してきた』『ふるまいが板についてきた』『母親としての自信』『母親であることが好きだ』という7項目で、何れも肯定的得点を示し、その割合も多い。

『子育てが負担』『世の中から取り残された感じ』『視野が狭くなるようだ』『母親として不適格』『子育てに自信がない』『子育ては精神的に疲れる』の6項目では、いずれも<そうは思わない>という得点が得られたが、だが、その割合をみると『精神的に疲れる』-33.9%、『不適格ではないか』-24.9%という母親がいることに留意したい。

また、『行動が制限される』の項目では<そう思う>割合が70.5%である。この『行動が制限される』項目は他の項目との間では相関が低いので、母親としての充実感を表す気持ち・感情とは別ものと考えられる。乳幼児を持つ母親は、行動の自由に制限があることを実感として表しているのではないだろうか。

<父親>

母親と同様に『父親であることに充実感を感じる』などの7項目で、いずれも肯定的な得点を示し、その割合も多い。また、『子育てが負担に感じられる』などの6項目では、いずれも<そう思わない>という得点が得られた。しかし『行動が制限される』の項目ではそう思うという割合が51.2%で、母親に比べ低い父親も行動の制限を感じている。

② 夫の子育ての協力別クロス集計 (表I-2-2)

<母親>

夫が子育てに協力的でない群(③④)では『母親であることに生きがいを感じる』の項目で、<そうは思わない>という否定的な割合が他群に比べ多い。また『母親として不適格』『子育てに自信がない』という項目でも特に夫が協力的でない(④)群では、<かなりそう思う②>割合が他群に比べ多い。

<父親>

特に協力的な父親群(①)では、『充実感』『気持ちの落ち着き』『生きがい』『成長してきた』『父親であることが好きだ』の5項目では、<非常にそう思う①・かなりそう思う②>割合が他群に比べ多い。また、協力的な父親群(①②)群では『父親が板についてきた』『自信がでてきた』の2項目で、<非常にそう思う①・かなりそう思う②>割合も他群に比べ多い。

また、協力的な父親群(①②)では『負担に感じる』『視野が狭くなる』『精神的に疲れる』の3項目では<そうは思わない⑥⑦>割合が他群に比べ多い。

協力的ではない父親群(③④)では、『不適格ではないか』の項目で<そう思う①②③>の割合が他群に比べ多い。

<小括>

- ・母親・父親ともに、親としての自分を肯定的に受け止めている。
- ・だが、行動が制限される、あるいは精神的に疲れるという割合は少なくはなく、子育てと仕事を両立させていることの大変さが推察される。
- ・夫が子育てに協力的という母親群では、他群に比べ母親としての自分をより肯定的に受け止めている傾向がある。
- ・父親も子育てに協力的な群では他群に比べ父親としての自分をより肯定的に受け止めており、子育ての負担や精神的な疲れの割合も他群に比べ少ない。

(5) 子育てをしている現在についてどのように思うか

① 対象全体

対象の多くの親は保育所を利用し、かつ夫の協力や祖父母の援助などにより子育てをしている。このような形での子育てに満足しているかどうかの質問では、母親の84.3%・父親の82.1%が満足していると回答している。

② 夫の子育ての協力別クロス集計

<母親>

夫の子育てが協力的ではない群では、<どちらかという不満③・不満④>の割合が多い。

<父親>

子育てに非常に協力的な群(①)では<満足①>の割合が多い。

<小括>

- ・多くの親は現在の子育ての態勢には満足している。
- ・だが、子育てをしている現状に不満がある母親の場合は、夫の子育ての協力が影響している。
- ・子育てに協力的な父親は、子育ての体勢にも満足している。

(6) 夫との話し合いや協力についてどのように思っているか

① 対象全体 (表I-3-①②③④)

『子育てに協力的か』『家事に協力的か』『子どものことについて話し合うか』『子どものことで話を聞いてくれたり相談ののってくれるか』の4項目について質問した。

どの項目においても夫が協力的であることが、母親・父親側の結果から得られた。だが、夫の協力は子育てや家事などの具体的な協力の割合は59.7%であり、このような具体的な協力よりも話を聞いてくれる等の割合の方が多い。夫の家庭生活全般にわたる協力態勢はまだ十分ではないようである。

② 夫の子育ての協力別クロス集計

夫が子育てに協力的な場合は、『家事』『話し合い』『相談ののってくれる』項目でも有意に協力的である。なお、母親側の回答と父親側の回答の相関をみたが、母親が父親は協力的だという群では、父親も協力的だと回答しており評価はほぼ一致している。

(7) 現在の暮らしの中での<自分自身について>どのように感じているか。

① 対象全体 (表I-4-1)
<母親>

『充実感がある』『楽しい』『ときめきを感じる』という項目では、そう思うという肯定的得点が得られた。

『ときめきを感じる』の<そう思う①~③>という肯定的な割合は39.3%であり、積極的に肯定する割合が少ない。

『空しい』『別の生き方をしたい』『つまらない』『物事をうまくこなせない』『ダメな人間だと思う』という項目では、<そう思わない>という否定をする得点が得られた。

『充実感』『楽しい』などの割合が多く、肯定的に自分を受け止めている。しかし、『別の生き方をしたい』-34.7%、あるいは『ダメな人間であると思う』-38.2%あり、自分自身の受け止め方は肯定的であるとばかりはいえない傾向が見られる。

<父親>

母親と同様に、多くの項目で肯定的な受け止め方をしている。『別の生き方をしたい』という割合は21.5%であり、母親のそれに比べ割合は少ない。

② 夫の子育ての協力別クロス集計 (表I-4-2)
<母親>

夫が子育てに協力的という群(①と②)では、『充実感がある』『楽しい』の項目で<非常にそう思う①・かなりそう思う②>割合が他群に比べ多い。また同群では『ときめきを感じる』項目でも、<かなりそう思う②・ややそう思う③>割合が他群に比べ多い。同じく同群では『空しい』という項目では、<非常にそうは思わない⑦・かなりそう思わない⑥>割合が他群に比べ多い。

子育てに協力的ではない群(③と④)では『別の生き方をしたい』という項目で<非常にそう思う①・かなりそう思う②>割合が他群に比べ多い。また同群では『つまらない』項目では<ややそう思う③>割合が他群に比べ多い。

<父親>

特に子育てに協力的な群(①)では、『充実感』『楽しい』『ときめき』『自信がある』の4項目では、<非常にそう思う①かなりそう思う②>の割合が他群に比べ多い。また、『空しい』『別の生き方をしたい』『つまらない』の項目では<非常にそう思わない①かなりそう思わない②>の割合が他群に比べ多い。子育てに協力的な群(①②)では、『良い素質がある』の項目ではそう

思う割合が他群に比べ多く、『物事がうまくこなせない』『ダメな人間だともう』項目ではそうは思わないという割合が他群に比べ多い。

小括

- ・多くの母親は『充実感がある』『楽しい』と、気分的には肯定的に自分を受け止めている。
- ・だが、『別の生き方をしたい』あるいは『ダメな人間だと思う』などの割合も少なくはなく、現在の暮らしのなかで自分自身を全体的に肯定的に受け止めているとはいえない面もある。
- ・夫の子育ての協力も、母親が肯定的に自分を受け止められているかに影響を与えている。
- ・多くの父親は『充実感がある』を初めとし全項目で肯定的に自分を受け止めている傾向がみられる。母親と父親を比較すると、『別の生き方をしたい』『自信』『素質』『物事のこなし方』『ダメな人間』などの項目では、父親は自己否定的に回答した割合が母親に比べ少ない。
- ・また、子育てに協力的である父親群では他群に比べ自分をより肯定的に感じている。

(8) 子ども好きかどうか

① 対象全体

子ども好きな母親は83.6%、子ども好きではない母親は66例-16.4%である。

子ども好きな父親は92.9%、子ども好きではない父親は25例-7.1%である。

② 夫の子育ての協力別クロス集計

母親の場合は、夫の子育ての協力によって子ども好きかどうかの関連は認められなかった。

父親の場合は、父親自身が子育てに自分は非常に協力的であるという群(①)では、子どもが好きであるという割合が他群に比べ多い。

小括

- ・親の多くは子ども好きである。
- ・子育てに協力的な父親は、子ども好きな割合が他群に比べ多い傾向がある。

3 <母親及び父親イメージについて>の結果

(1) 全体の傾向

母親・父親イメージを表す30項目について7段階スケールで得られた平均値について検討した。

得点1に近い程<非常にそう思う>で、得点7に近い程<非常にそう思わない>回答である。

①『母親イメージ』 (表Ⅱ-1-1)

◎『昔の母親イメージ』

表は、各項目の得点の平均値を得点順に並べ換えたものである。

『昔の母親イメージ』の特徴としては、思いやりと忍耐をもって家族の世話をしているイメージがある。

◎『母親としてのあなた自身のイメージ』

他の3つの母親イメージの平均値と比較すると、得点1に近い項目が少なく、多くの項目の平均得点値は3~4に分布しており、母親としてのイメージがまだ確信的なものとして把握されていない傾向がある。

また、昔の母親イメージと比較すると、昔の母親イメージで<そう思わない>という平均値(4.1以上)の合理的・視野が広い・自分の考えを通すなどの7項目が、今の母親の場合は<そう思う>という平均値で表されており、昔の母親イメージとその様相を異にしている。

現実的・好奇心旺盛・自分の考えを通すの項目が上位にきていることが、他の3つの母親イメージと異なる。

『母親として自分自身のイメージ』の特徴は、現実的で好奇心旺盛で自分の考えを通すところがあり、家族の世話をしている母親イメージがある。

◎『将来、志向する母親イメージ』

母親自身の母親イメージと比較すると、自身の母親イメージでは平均値が低かった包み込むような・頼もしい・視野が広い・穏やかなの項目の平均値が高い。「自分の考えを通す」の平均値は3.5に下がっており順位も降下している。

『将来、志向する母親イメージ』の特徴は、自己中心的・自己主張的ではなく、社会に対して関心を持ち視野が広く、感情表現も豊かで包容性をもって家族を守る穏やかな母親イメージである。

◎『社会が期待する母親イメージ』

志向する母親イメージに比べ、社会が期待する母親イメージでは、社会の常識を重視・耐えることができる・世話をするの項目の平均値が高い。

また、<そう思わない>という平均値の項目は依存的

・支配的・自己本位であり、これも志向する母親イメージと同じ項目があげられている。

『社会が期待する母親イメージ』の特徴は、自己中心のあるいは自己主張的ではなく、社会に対して関心を持ち視野が広く、また社会の常識を重んじ、感情表現も豊かで包容性をもって家族を守る穏やかな母親イメージである。

◎ 全体の傾向-各母親イメージの相関

(表Ⅱ-1-2)

『昔の母親・母親としての自分自身・将来、志向する母親・社会が期待する母親』の4つの母親イメージの相関を、平均値を基に算出したところ次のことが認められた。

- * 自分自身のイメージは、昔の母親・志向する母親・社会が期待する母親とも相関係数が低い。
- * 将来志向する母親と社会が期待する母親のイメージは非常に相関が高く、そのイメージはほぼ一致している。
- * 昔の母親イメージは、自分自身のイメージとは相関が低いが、社会が期待する母親イメージとは相関が高く、志向する母親イメージとも相関がある。

② 『父親イメージ』

◎『昔の父親イメージ』 (表Ⅱ-2-1)

『昔の父親イメージ』の特徴は、社会の常識を重んじ厳格で、自分を主張し指導力をもって家族を支えるイメージである。

◎『父親としてのあなた自身の父親イメージ』

他の3つの父親イメージの平均値と比較すると、得点1に近い項目が少なく、多くの項目の平均得点値は3~4に分布しており、父親としてのイメージが、<そう思う>という確信的なものとして把握されていない傾向が母親と同様にみられる。

『父親自身の父親イメージ』の特徴は、現実的な・好奇心旺盛など父親イメージである。

◎『将来、志向する父親イメージ』

そう思うの上位7項目は表の通りであるが、決断力・頼もしい・指導力など、昔の父親イメージで上位にあった項目が同様にあげられ、なおその平均値も上昇している。だが、昔の父親と現在の自分自身の父親イメージであげられた「社会の常識を重視する」「自分の考えを通す」は降下し平均値も低くなっている。そして、新たに「視野が広い」「包みこむような」の項目があげられている。

志向する父親像の特徴は、視野が広く指導性があり、包容性をもって家族を支える父親イメージである。

④『社会が期待する父親イメージ』

社会が期待する父親イメージで上位に挙げられた項目と志向する父親イメージで挙げられた項目は同じである

⑤ 全体の傾向—各父親イメージの相関

(表Ⅱ-2-2)

30項目のイメージ全体における昔の父親・父親としての自分自身・将来志向する父親・社会が期待する父親の4つのグループについて検討した結果、次のことが認められた。

*母親イメージと同様に父親イメージも将来・志向する父親イメージと社会が期待する父親イメージの相関が高く、ほぼ一致している。

*昔の父親イメージは、現在の父親自身のイメージとかなり相関があるが、将来志向する父親イメージや社会が期待するものとは相関が低い。

*現在の父親イメージは、昔の父親イメージや将来志向する父親イメージそして社会が期待するものと、かなりの相関を有していることがわかった。

(2) 因子分析による結果

① 母親イメージの因子分析

(表Ⅱ-3-1①②③④)

③『昔の母親イメージ』

第1因子には耐える・思いやり・献身性・世話をするなどの項目があげられ、<忍耐と包容性のある養育性>と名付けられる因子が抽出された。第2因子としては<非合理的な指導性>と名付けられる因子である。

昔の母親像は『忍耐がよく穏やかではあるがしっかりと家族の中を治めている母親像』として捉えられている。

⑥『母親としてのあなた自身の母親イメージ』

第1因子は穏やか・純粹・包みこむような・素直な、そしてしなやかではないの項目が挙げられ<素直な包容性>と名付けられる因子が抽出された。第2因子としては<忍耐のある養育性>、第3因子としては<決断力のある指導性>が抽出された。

自分自身の母親像は、まず穏やかで純粹で素直な包容性があるがしなやかさが無い。他者への働きかけを表すものというより自己の資質を表すものが因子として抽出された。昔の母親において第1因子・第2因子に抽出された項目は、ここでは第2・第3因子になっており養育性と指導性がやや後退している傾向がある。

自分自身の母親像は『しなやかではないが、穏やかで素直な態度で家族の世話をしており、ある程度指導性もある母親像』として捉えられている。

④『将来、志向する母親イメージ』

第1因子は純粹・素直・包みこむような・しなやかさ・世話などの項目で<純朴で包容性のある養育性>、第2因子は<非支配的な厳格性>、第3因子<社会性のある指導性>と名付けられる因子が抽出された。

現在の自分自身の母親像に比べ、献身性・世話をしなやかさが第1因子に抽出され、また第2因子では支配性・自己本位・依存性が否定因子として抽出されている。

志向する母親像は、『純朴で包容性のある態度で献身的に家族の世話をし、厳格ではあるが中庸で、社会性のある指導性をもった母親像』として捉えられている。

④『社会が期待する母親イメージ』

第1因子としては<忍耐と共感性のある養育性>、第2因子としては<感性と社会性のある指導性>、第3因子としては<非支配性>と名付けられる因子が抽出された。第1因子は、昔の母親イメージで第1因子に抽出された8項目が同様に抽出されているが、共感性や純粹・素直などの項目がここでは抽出されており、共感性などの受容性もあげられている。

社会が期待する母親は『共感性と忍耐をもって家族の世話をし、かつ感性と社会性のある指導性を持ち非支配的な態度である母親像』として捉えられている。

② 父親イメージの因子分析

(表Ⅱ-3-2①②③④)

③『昔の父親イメージ』

第1因子は決断力がある・頼もしい・厳格な・家族を支える・社会の常識を重視・包み込むような項目で、<強く厳しいが包容性のある指導性>と名付けられる因子が抽出された。第2因子では<非合理的だが社会性のある理性>、第3因子としては<忍耐のある養育性>が抽出された。

昔の父親には『社会の常識を重んじ、厳しさと理性を備えた指導性がある。そして包容性と忍耐をもって家族を支えている父親像』が認められる。

⑥『父親としてのあなた自身のイメージ』

第1因子は指導力・頼もしい・家族を支える・決断力・思いやり・包み込むようななどの項目で、<強いが優しい包容性のある指導性>と名付けられる因子が抽出された。昔の父親に比べ、厳格さ・社会の常識を重視する項目に替わり、思いやり・純粹さの項目があげられ、厳

しさより優しさがある父親像がうかがえる。第2因子は<従順な献身性>の因子が、第3因子としては<社会性のある理性>が抽出された。

自分自身は『包容性・指導性・理性・社会性がある。そして優しさと献身性をもって家族を支える父親像』として把えられている。

③『将来、志向する父親イメージ』

第1因子は頼もしい・決断力・家族を支える・包み込むような・指導力・思いやりの項目で、<強いが優しい包容性のある指導性>と名付けられる因子が抽出された。第2因子は『しなやかな共感性』が、第3因子としては『非支配的な中庸性』が抽出された。

将来志向する父親像は『強いが優しい包容性のある指導性をもって、そしてしなやかさや共感性をもって家族を支えていく父親像』として把えられている。

④『社会が期待する父親像』

第1因子は将来志向する父親像と類似しているが、厳格・視野が広いの項目が入っており<厳格で社会性と包容性のある指導性>と名付けられる因子が抽出された。第2因子としては<忍耐と理性>が、第3因子としては<しなやかな感性>が抽出された。

社会が期待する父親像は『厳格で社会性がありまた理性的である。かつ包容性をもって家族を支える。忍耐性や感性もある父親像』として把えられている。

IV 考 察

(1) 子育てと仕事の両立の意識と、子育てをしている時の意識や感情について

対象の母親の多くは仕事をもち乳幼児の子育てをしており、子育てと仕事を両立させながら生活をしている。そして、その母親達の73%は今後も子育てと仕事を両立させてやっていく意識を持っている。また、父親の60%は、仕事に影響を及ぼさない限り協力してやっていくという意識を持っている。

このように子育てと仕事を両立させている父親・母親達の子育てをしている時の意識や感情について検討したところ、次のような結果が得られた。

① 父親・母親の多くは、子どもを育てている時の気持ちは肯定的であり、親としての自分を肯定的に受け止めている。しかし、行動が制限されるあるいは精神的に疲れるなどの割合が多く、子育てをしている現在の生活が大変であることが推察される。

② 現在の暮らしの中での自分については、母親は充実感があるなど、気分的には母親としての自分を肯定的に受け止めている。だが、別な生き方をしたいという割合も少なくなく、現在の生活における自分を全面的に肯定して受け止められていないことがわかった。

父親も行動の制限を感じてはいるが、父親として受け止め方や自尊感情では自己肯定的であり、母親に比べ自己否定的な割合は少ない。

③ 夫の子育ての協力別に上記について検討した結果、母親が<夫は子育てに協力的である>と評価している群では、母親の子どもに対する気持ちが肯定的で、また母親としての自己肯定感なども高い傾向がある。父親自身が自分は子育てに協力的であると自己価値している群では、子どもに対する気持ちや、父親としての自己肯定感なども高い傾向がある。

以上のことから、『母親が子育てと仕事を両立させていく時には、<夫の子育ての協力>が母親の気持ちを安定させ、母親が肯定的な気持ちで子どもに関わることができ、そして母親としても充実感をもって生活できる重要な要因であること』が認められた。

親が<仕事と子育てが両立している>という状態は、まず<家族が安全につつがなく生活でき、問題解決能力をもっている>ということが基本になるであろう。しかし、このことのみで、仕事と子育てが両立しているといえるであろうか。

仕事と子育てが両立しているということには、日常生活の遂行だけではなく、どのような自己肯定感をもって生活をしているかということも含まれるのではないだろうか。一個人として・親として・夫婦としての充足感、あるいは自尊感情 (self-esteem) は、その個人の生活全体における精神的な安定度をみる指標ともなる。

仕事と子育てを両立させている要因を考える時に、このように<生活者としての自分>をどのように把えているかという自己肯定感など、精神面に関する視点を持つことも重要である。

この意味において、子育てと仕事の両立についての考察をする。

*我々の調査では、妻(母親)の自己肯定感は夫に比べやや低い傾向ありその肯定感に違いが認められた。妻(母親)が、自分を十分に肯定的に受け止めににくいところがあるとしたならば、仕事と子育てが両立しているというには十分ではないのではないだろうか。精神的な意味

においては、仕事と子育てが両立し生活が十分に安定しているとは認められにくい。

妻の自己肯定感や安定した精神状態に関しては、夫の協力が重要な要因であることが認められた。だが、実態は、<できる範囲での協力>と夫たちが回答しており、夫の協力を十分に得られにくい背景について検討していかなければならない。

日本の社会では、職業生活と家庭生活に関してまだ伝統的な性的役割分業の価値観がある。今日では、男性の家庭生活回帰現象や家庭生活に関わるような施策も打ち出されてはきている。そして、女性の仕事に対する意識の変化や社会の期待など、女性の仕事に対する価値観も変化しつつあり、伝統的な価値観と変化しつつある価値観という波が混在しているのが現状である。しかし、性的役割分業の価値観は厳然とあり、女性の心の環境に影響を及ぼしている社会の価値観などについてはまだまだ考えていかなければならないことがある。

調査では、夫の家事や子育ての協力は<仕事に影響を及ぼさない限り、家事はできる範囲で協力>という夫の割合が多かった。まさに伝統的な役割分業の価値観の現れでもあり、また職業生活が中心となっている現実の生活での実態である。

小西淑子⁹⁾の「共働きの夫の意識と生活技術調査-90年」調査でも、共働きの夫たちは家事に対して積極的ではなかった。困った時に手伝うとか、分担を決めず手があいている人がすればよいなどと家事に関しては消極的であるという結果が出ている。

しかし、妻が家庭生活を<できる範囲で協力する>と男性のように実行したらどうであろうか。生活の営みの一部である家庭生活を維持することは不可能に近い。

家庭生活の運営に関して、我々は<協力>という言葉に対等性のある言葉として使っているだろうか。多くは援助・手伝いという意味合いをもって使われている。家事も育児も生活の営みの一部であるという認識が生まれれば、協力=手伝いという発想はおきにくいのではないだろうか。夫婦(パートナー)の間で、生活者としての生活の営み(育児・家事を含めて)についてどのようにしていくかなど十分に話され・共有され、そして彼らが自分達の生活を作っていくことが、仕事と生活を両立させていくことの第一歩であろう。

しかし、現実には性による役割分業などの価値観がある。男女が家事や育児を含んだ生活の営み全体に関わるという価値観に至るまでには<時>を必要とするであろう。

職業生活を包含した全生活を通した男女のあり方をみると、男性は職業生活に主たる力を注ぎ、生活=サバイバルの面では、妻など他の人の働きと援助によって成り立っている人が多勢である。しかし、女性の場合には、子育て・生活を補助的にしてよいという選択の余地や機会に恵まれることは、今の日本の社会では稀有である。このことは、補助的あるいは選択的に家庭生活に参加できる環境にある男性との大きな違いである。

このような状況を考えると、女性が職業生活と子育てをも含めた生活を両立させているという意識がもてるようになるには、性による役割分業観など社会の価値観などが今後どのように変わるか・変えていくかによるところが大きいであろう。

そして、職業及び家庭生活などを含めた全生活における自分自身の受け止め方(self-esteem)をみた時、共働きの夫婦の間で差異があるということについても、上記の状況を踏まえて今後十分に検討されていかなければならない。

*父親達の意識を調査結果の父親イメージより検討すると、次のような意識の変化の兆が認められた。<志向する父親・社会が期待する父親イメージ>の中では「思いやりのある」「世話をする」項目の平均値が高かった。また、因子分析では「しなやかさ」が<自分自身・志向する父親>の第2因子として、<社会が期待する父親>の第3因子に抽出されている。特にこの調査対象が都市ばかりではなく伝統的な価値観が残っているといわれている地方都市を背景にしているので、この意識の変化の兆しには意味があると考えられる。

しかし他方、<社会が期待する母親イメージ>の中に昔の母親イメージがあることが認められている。また、因子分析の第1因子の中に共通して「耐える」「献身的」「待つことができる」「従順な」「世話をする」などの項目が抽出されており、母親の母親イメージの変化は認められにくかった。

また、袖井孝子¹⁰⁾の「女性の自立に関する研究-1992年」によると、女性が期待する男性の自立像は、職業に従事・家族を経済的に支える・信念を持つで、男性の家事・育児・身辺自立を重要視していないという報告もある。女性側の男性に対する期待あるいは自立像などが、どのような価値観・意識の基に形成されているかなどについても検討していかなければならない。

(2) 母親及び父親イメージについて

母親・父親イメージについて検討したが次のような結果が認められた。

① 母親イメージ

◎母親イメージの全体の傾向としては、「家族を支える」「思いやりのある」項目が高い得点であり、また上位に抽出され、因子分析でも「養育性」と「指導性」が抽出された。母親イメージを特徴的に表すものとしては「養育性」が認められる。

①昔の母親イメージとしては、非理性的で控えめで思いやりがあり、忍耐よく世話をしている母親像が認められた。

◎そして、昔の母親イメージは将来志向する母親・社会が期待する母親イメージとの相関がある。第1因子を構成する共通の項目は、耐える・思いやり・献身的・世話・包み込むようなのである。母親達が志向する母親イメージの基底には<昔の母親イメージ>がある。

◎現在の母親自身の母親イメージは、昔の母親・志向する母親・社会が期待する母親イメージとは相関が低く、かなり独自性がある。母親は子どもにたいして包容性をもって素朴に受容し、世話をしていることが認められた。また、自分の考えを通すなど自己主張のある態度が認められたが、全項目の平均得点値が他に比べ低い傾向があるので、母親として自分のイメージが十分に確信的なものとして把握されていない傾向がある。

◎志向する母親・社会が期待する母親イメージの中でも昔の母親イメージと相違するところがある。それは、昔の母親イメージでは得点の低かった「視野が広い」「感情表現の豊かな」という項目の得点が高いことである。

現代の母親達の母親イメージの中に、昔の母親イメージがあるが、社会性の要素が必要であることも認めている。

*今の<母親自身の母親イメージ>は、<昔の母親や志向する母親のイメージ>と異なることがあり、それは自己主張をするところなどである。母親自身の母親イメージと他の3つの母親イメージとの間にはこのような解離がある。だが、<志向する母親イメージ>や<社会が期待している母親イメージ>に<昔の母親イメージ>をみていることから、現代の母親の母性心理の基底には昔の母親イメージがあると考えられる。

また、前述の調査結果と合わせて考察すると、夫の協

力度が十分でない状態でもまた母親自身の疲労などであっても、母親達が比較的安定した気持ちで子どもに関わって生活をしているのは、母親イメージ(理想)の中にもみられる<耐えること・献身的・世話をする>要素などの無意識的活動によるものとも考えられる。

意識の上で昔の母親イメージを払拭していても、昔の母親イメージが無意識の中に存在しており、このような心的事実が、現実の生活で子育てや家事などを全面的に引き受けていることへの不満感を顕在化させにくくしている要因になっているのではないだろうか。

*現在の自分のイメージと解離したイメージが志向する母親イメージの中に認められたことや、社会の期待する母親イメージはどのように作られるのかなどについて、今後の研究によりさらに検討を深めていかなければならない。

② 父親イメージ

◎父親イメージの全体の傾向としては、「家族を支える」項目が高い得点で抽出された。また、因子分析でも「包容性」と「指導性」が抽出され、父親イメージとしては「包容性のある指導性をもって家族を支える父親像」が考えられる。

◎『父親としての自分自身のイメージ』は、昔の父親イメージと類似しており、自分の考えを通す・常識を重んじる・家族を支えることは共通しているが、決断力・頼もしさ・指導力の平均値が低く、また上位にあげられていなく、昔の父親に比べ指導性のある父親イメージは低い傾向がある。

◎『将来の父親イメージ』では社会に視野が開かれ・頼もしく・決断力・指導力があり、かつ包容性をもって家族を支える父親イメージがえがかれている。また、昔の父親や自分自身のイメージでは肯定的な態度を示す平均値であった「支配的」「自己本位な」の項目は、そうは思わないという平均値を示し自己中心的な要素を否定している。そして現在の自分のイメージに比べ、多くの項目でより肯定的なイメージを示している。

◎『社会が期待する父親イメージ』では自分が志向する父親イメージとほぼ同じ傾向を示す。

*現代の父親イメージは昔の父親・志向する父親・社会が期待する父親と間に相関を有している。しかし、昔の父親イメージは志向する父親・社会の期待するものとの相関が低い。

父親自身は、将来に向かっては社会の期待するものに

添うような父親イメージを志向し、社会の期待に同調的な面があるが、昔の父親イメージを払拭していないことから考えると、父親自身は父親像をつかみにくい状況にあるのではないだろうか。

昔の父親イメージは、将来に向かってはかなりその様相を異にし、評価が変化していく可能性があるのではないかと考えられる。また、因子分析の結果からは、しなやかさ・共感性などの受容的因子が現在の父親・将来の父親・社会の父親に抽出されており、これが昔の父親イメージとの違いであることが示唆された。

また、現在の父親自身では、強く優しく包容性のある指導性の因子と、献身性など受容的な因子も認められ、現代の父親は子どもを育ていく際の養育性や受容性を大切にしていることも示唆された。

現代の親の養育機能の中で常に重視されてきた父性・母性の動向であるが、父親と母親ではその様相を異にするが、父親・母親イメージに関して検討すると、養育性や受容性の因子が両者より抽出された。

このことは、現代の父親には昔の父親にはなかった共感性や受容性などの多様性が求められてきているということであろう。

仕事と子育てを両立させていくには、夫の協力が重要な要因として認められた。しかし、共働きの女性の心理的狀態を考察すると、自尊感情などで男性に比べ低い傾向がある。仕事と子育てと生活を担う女性の自尊感情などがより高められ、精神面の環境がととのえられていくことが望ましい。

意識の変化にはさまざまな要因がはたらくが、社会の価値基準や経済的自立が個人の意識に及ぼす影響は大きい。男性の意識の変化の兆しが見られてはいるが、これは現実の社会情勢の動きによる社会の価値観の大きな変化の影響と考えられる。女性に対する考え方や意識が変容していくにはまだ難しい状況にある。女性の自尊感情が大切にされそして高められて、精神面でも安定と豊かさをもって仕事と子育てが両立できるような環境作りが課題である。

本調査研究にあたり、愛知教育大学西村洲衛男教授には多くのご教示を賜り感謝申しあげます。また、日本総合愛育研究所愛育相談所・囁託相談員の神田久男（立教大学教授）、吉川政夫（東海大学助教授）、山本清恵、稗田涼子先生方には質問紙作成などに関してご示唆・ご協力をいただき感謝申しあげます。調査をお引き受けくださいました保育園の先生方とご両親に心からお礼申しあげます。

本研究は、平成4年度厚生科学研究費による家庭・出生問題総合調査研究「家庭機能に関する研究：家庭養育機能及び家庭に対する社会的・公的支援に関する研究」の一環として行ったものである。

<参考及び引用文献>

- 1) 青木まり：1986「母性意識から見た母親の特徴」、心理学研究, 57, 207-213
- 2) 大日向雅美：1982「母性意識の発達変容にいてー母親の教育歴・就労形態・年齢別の分析」、日本教育心理学会第24回総会発表論文集, 298-299
- 3) 大日向雅美：1981「母性発達と妊娠に対する心理的な構えと関連性について」、周産期医学, 11, 147-153
- 4) 柏木恵子：1982「子どもの発達環境としての女性、母性、家庭をめぐる現状と問題」、母子研究, 5, 204-211
- 5) 山口素子：1985「男性性・女性性の2側面についての検討」、心理学研究, 56, 2 15-221
- 6) 山口素子：1989「男性性・女性性の2側面についての検討II」、心理学研究59, 350-356
- 7) Cook, E. P., 1985 Psychological Androgyny, Pergamon Press, N. Y.
- 8) 河合隼雄：1967「ユング心理学入門」、培風館
- 9) 小西淑子：1990「共働きの夫の意識と生活技術調査」
- 11) 袖井孝子：1992「女性の自立に関する研究」
- 12) 鹿嶋 敬：1993「男の座標軸」、岩波書店

千賀他：2. 家庭養育機能と職業生活との両立に関する研究

(表I-1-1) あなたは普段の生活でお子さんと過ごしている時、どのような気持ちですか。

① 対象全体--母親	非常に そう思う①	かなり そう思う②	ややそう 思う ③	どちらとも 言えない④	ややそう 思わない⑤	かなりそう 思わない⑥	非常にそう 思わない⑦	計 例 (N)	平均得点 標準偏差
1 いとおしい	149(38.9)	135(35.2)	78(20.4)	19(5.0)	0	1(0.3)	1(0.3)	383(100.0)	1.9 ± 0.9
2 疲れを感じる	7(1.8)	30(7.8)	128(33.4)	89(23.2)	52(13.6)	50(13.1)	27(7.0)	383(100.0)	4.1 ± 1.4
3 楽しい	110(28.7)	154(40.2)	92(24.0)	26(6.8)	0	1(0.3)	0	383(100.0)	2.1 ± 0.9
4 逃げ出したくなる	3(0.8)	7(1.8)	46(12.0)	64(16.7)	49(12.8)	69(18.0)	145(37.9)	383(100.0)	5.4 ± 1.6
5 喜びを感じる	114(29.8)	145(37.9)	89(23.2)	34(8.9)	1(0.3)	0	0	383(100.0)	2.1 ± 0.9
6 心配になる	30(7.8)	46(12.0)	113(29.5)	78(20.4)	49(12.8)	36(9.4)	31(8.1)	383(100.0)	3.8 ± 1.6
7 一緒にいたい	139(36.3)	116(30.3)	84(21.9)	37(9.7)	6(1.6)	1(0.3)	0	383(100.0)	2.1 ± 1.1
8 イライラする	5(1.3)	8(2.1)	39(10.2)	69(18.0)	50(13.1)	68(17.3)	144(37.6)	383(100.0)	5.4 ± 1.6
9 自信がなくなる	6(1.6)	18(4.7)	70(18.3)	95(24.8)	54(14.1)	76(19.8)	64(16.7)	383(100.0)	4.7 ± 1.6
10 気持ちがあごむ	99(25.8)	117(30.5)	115(30.0)	40(10.4)	11(2.9)	0	1(0.3)	383(100.0)	2.4 ± 1.1
11 かわいい	239(62.4)	102(26.6)	36(9.4)	5(1.3)	1(0.3)	0	0	383(100.0)	1.5 ± 0.7
12 憎らしく感じる	6(1.6)	5(1.3)	32(8.4)	52(13.6)	29(7.6)	70(18.3)	189(49.3)	383(100.0)	5.8 ± 1.6
13 安らぎを感じる	97(25.3)	114(29.8)	96(25.1)	64(16.7)	7(1.8)	4(1.0)	1(0.3)	383(100.0)	2.4 ± 1.2
14 やっかいな感じがする	3(0.8)	3(0.8)	38(9.9)	49(12.8)	53(13.8)	70(18.3)	167(43.6)	383(100.0)	5.7 ± 2.2
								合計例数：無効数-35	合計 418 例

注) 平均得点について - *得点が<1~3, 9>の場合は<そう思う>と、その項目を肯定している
 *得点が<4, 1~7>の場合は<そう思わない>と、その項目を否定している
 *得点4は中間値である
 *以下、各表における平均得点も上記のように規定した

② 対象全体--父親	非常に そう思う①	かなり そう思う②	ややそう 思う ③	どちらとも 言えない④	ややそう 思わない⑤	かなりそう 思わない⑥	非常にそう 思わない⑦	計 例 (N)	平均得点 標準偏差
1 いとおしい	78(24.8)	118(37.5)	80(25.4)	31(9.8)	4(1.3)	2(0.6)	2(0.6)	315(100.0)	2.3 ± 1.1
2 疲れを感じる	5(1.6)	13(4.1)	73(23.2)	90(28.6)	43(13.7)	57(18.1)	34(10.7)	315(100.0)	4.5 ± 1.5
3 楽しい	83(26.3)	121(38.4)	88(27.9)	17(5.4)	3(1.0)	1(0.3)	2(0.6)	315(100.0)	2.2 ± 1.0
4 逃げ出したくなる	5(1.6)	2(0.6)	21(6.7)	52(16.5)	45(14.3)	69(21.9)	121(38.4)	315(100.0)	5.6 ± 1.5
5 喜びを感じる	87(27.6)	109(34.6)	91(28.9)	24(7.6)	2(0.6)	1(0.3)	1(0.3)	315(100.0)	2.2 ± 1.0
6 心配になる	17(5.4)	30(9.5)	75(23.8)	72(22.9)	42(13.3)	40(12.7)	39(12.4)	315(100.0)	4.2 ± 1.7
7 一緒にいたい	80(25.4)	106(33.3)	86(27.3)	34(10.8)	4(1.3)	2(0.6)	3(1.0)	315(100.0)	2.3 ± 1.1
8 イライラする	4(1.3)	1(0.3)	12(3.8)	56(17.8)	43(13.7)	83(26.3)	116(36.8)	315(100.0)	5.7 ± 1.4
9 自信がなくなる	5(1.6)	10(3.2)	14(4.4)	53(16.8)	52(16.5)	84(26.7)	97(30.8)	315(100.0)	5.5 ± 1.5
10 気持ちがあごむ	85(27.0)	122(38.7)	80(25.4)	22(7.0)	3(1.0)	1(0.3)	2(0.6)	315(100.0)	2.2 ± 1.0
11 かわいい	147(46.7)	106(33.7)	48(15.2)	9(2.9)	4(1.3)	0	1(0.3)	315(100.0)	1.8 ± 0.9
12 憎らしく感じる	5(1.6)	5(1.6)	13(4.1)	37(11.7)	34(10.8)	62(19.7)	159(50.5)	315(100.0)	5.9 ± 1.4
13 安らぎを感じる	72(22.9)	97(30.8)	87(27.6)	47(14.9)	7(2.2)	1(0.3)	4(1.3)	315(100.0)	2.5 ± 1.2
14 やっかいな感じがする	3(1.0)	2(0.6)	25(7.9)	43(13.7)	34(10.8)	73(23.2)	135(42.9)	315(100.0)	5.7 ± 1.4
								合計例数：無効数-65	合計 380 例

日本総合愛育研究所紀要 第29集

(表I-2-1) あなたは現在子育てをしていて、母親である自分をどのように感じていますか。

① 対象全体-母親	非常に そう思う①	かなり そう思う②	ややそう 思う ③	どちらとも 言えない④	ややそう 思わない⑤	かなりそう 思わない⑥	非常にそう 思わない⑦	計 例 (X)	平均得点 標準偏差
1 母親であることに充実感を感じる	69(18.9)	117(32.0)	102(27.9)	58(15.8)	16(4.4)	2(0.5)	2(0.5)	366(100.0)	2.6 ± 1.2
2 母親になって気持ちが落ちついてきた	43(11.7)	96(26.2)	107(23.8)	87(23.8)	22(6.0)	9(2.5)	2(0.5)	366(100.0)	3.0 ± 1.2
3 母親であることに生きがいを感じる	63(17.2)	112(30.6)	89(24.3)	79(21.6)	14(3.8)	5(1.4)	4(1.1)	366(100.0)	2.7 ± 1.3
4 母親になってから成長してきた	74(20.2)	99(27.0)	122(33.3)	60(16.4)	8(2.2)	3(0.8)	0	366(100.0)	2.6 ± 1.1
5 母親としてのふるまいが板についてきた	24(6.6)	55(15.0)	130(35.5)	109(29.8)	32(8.7)	10(2.7)	6(1.6)	366(100.0)	3.4 ± 1.2
6 母親としての自分に自信が出てきた	19(5.2)	34(9.3)	126(34.4)	113(30.9)	52(14.2)	18(4.9)	4(1.1)	366(100.0)	3.6 ± 1.2
7 母親であることが好きだ	78(21.3)	98(26.8)	115(31.4)	62(16.9)	6(1.6)	2(0.5)	5(1.4)	366(100.0)	2.6 ± 1.2
8 子育てが負担に感じる	1(0.3)	8(2.2)	53(14.5)	83(22.7)	69(18.9)	81(22.2)	71(19.4)	366(100.0)	5.0 ± 1.4
9 世の中から取り残された感じがする	4(1.1)	8(2.2)	38(10.4)	66(18.0)	57(15.6)	80(21.9)	113(30.9)	366(100.0)	5.4 ± 1.5
10 行動が制限される	37(10.1)	86(23.5)	135(36.9)	49(13.4)	28(7.7)	20(5.5)	11(3.0)	366(100.0)	3.1 ± 1.4
11 視野が狭くなるようだ	9(2.5)	14(3.8)	49(13.4)	85(23.2)	62(16.9)	75(20.5)	72(19.7)	366(100.0)	4.9 ± 1.6
12 母親として不適格ではないかと思う	10(2.7)	22(6.0)	59(16.1)	107(29.2)	68(18.6)	61(16.7)	39(10.7)	366(100.0)	4.5 ± 1.5
13 子育てに自信がない	5(1.4)	20(5.5)	44(12.0)	88(24.0)	82(22.4)	82(22.4)	45(12.3)	366(100.0)	4.8 ± 1.4
14 子育ては精神的に疲れる	10(2.7)	30(8.2)	84(23.0)	83(22.7)	60(16.4)	51(13.9)	48(13.1)	366(100.0)	4.4 ± 1.6
合計例数：無効数-52 合計 418 例									

② 対象全体-父親	非常に そう思う①	かなり そう思う②	ややそう 思う ③	どちらとも 言えない④	ややそう 思わない⑤	かなりそう 思わない⑥	非常にそう 思わない⑦	計 例 (X)	平均得点 標準偏差
1 父親であることに充実感を感じる	40(12.4)	103(32.0)	105(32.6)	53(16.5)	14(4.3)	3(0.9)	4(1.2)	322(100.0)	2.8 ± 1.2
2 父親になって気持ちが落ちついてきた	38(11.8)	93(28.9)	100(31.1)	75(23.3)	12(3.7)	1(0.3)	3(0.9)	322(100.0)	2.8 ± 1.1
3 父親であることに生きがいを感じる	37(11.5)	100(31.1)	96(29.8)	76(23.6)	10(3.1)	1(0.3)	2(0.6)	322(100.0)	2.8 ± 1.1
4 父親になってから成長してきた	31(9.6)	69(21.4)	109(33.9)	94(29.2)	13(4.0)	3(0.9)	3(0.9)	322(100.0)	3.0 ± 1.1
5 父親としてのふるまいが板についてきた	12(3.7)	37(11.5)	106(32.9)	129(40.1)	24(7.5)	7(2.2)	7(2.2)	322(100.0)	3.5 ± 1.1
6 父親としての自分に自信が出てきた	8(2.5)	41(12.7)	106(32.9)	128(39.8)	25(7.8)	9(2.8)	5(1.6)	322(100.0)	3.5 ± 1.1
7 父親であることが好きだ	47(14.6)	79(24.5)	92(28.6)	83(25.8)	15(4.7)	1(0.3)	5(1.6)	322(100.0)	2.9 ± 1.2
8 子育てが負担に感じる	2(0.6)	7(2.2)	29(9.0)	66(20.5)	71(22.0)	81(25.2)	66(20.5)	322(100.0)	5.2 ± 1.4
9 世の中から取り残された感じがする	0	1(0.3)	14(4.3)	49(15.2)	48(14.9)	82(25.5)	128(39.8)	322(100.0)	5.8 ± 1.2
10 行動が制限される	9(2.8)	34(10.6)	122(37.9)	60(18.6)	35(10.9)	34(10.6)	28(8.7)	322(100.0)	3.9 ± 1.5
11 視野が狭くなるようだ	0	4(1.2)	18(5.6)	61(18.9)	61(18.9)	96(29.8)	82(25.5)	322(100.0)	5.5 ± 1.3
12 父親として不適格ではないかと思う	4(1.2)	5(1.6)	34(10.6)	78(24.2)	51(15.8)	82(25.5)	68(21.1)	322(100.0)	5.1 ± 1.4
13 子育てに自信がない	3(0.9)	2(0.6)	24(7.5)	71(22.0)	63(19.6)	86(26.7)	73(22.7)	322(100.0)	5.3 ± 1.3
14 子育ては精神的に疲れる	3(0.9)	9(2.8)	72(22.4)	63(19.6)	46(14.3)	64(19.9)	65(20.2)	322(100.0)	4.8 ± 1.6
合計例数：無効数-58 合計 380 例									

(表I-3) 父親は子育てや家事に協力的ですか、また話しあいをしていますか。

- ① (母親に) あなたのご主人は、子育てに協力的ですか。
 (父親に) あなたは子育てに協力的ですか。

		協力的である ①	どちらかとい いと協力的 ②	どちらかとい うと協力的で はない ③	協力的では ない ④	計 例数 (%)	無効数	合計 例数
母親	子育てに協力的ですか	161 (42.4)	155 (40.8)	50 (13.2)	14 (3.7)	380 (100.0)	35	418
父親		114 (32.6)	183 (52.3)	45 (12.9)	8 (2.3)	350 (100.0)	30	380

- ② (母親に) あなたのご主人は、家事に協力的ですか。
 (父親に) あなたは家事に協力的ですか。

母親	家事に協力的ですか	85 (22.4)	142 (37.4)	91 (23.9)	62 (16.3)	380 (100.0)	35	418
父親		65 (18.6)	148 (42.3)	111 (31.7)	26 (7.4)	350 (100.0)	30	380

- ③ (母親に) あなたはご主人と子どものことについて話しあいますか。
 (父親に) あなたは奥様と子どものことについて話しあいますか。

		話しあう ①	どちらかとい いと話しあう ②	どちらかとい うと話しあわ ない ③	話しあわない ④	計 例数 (%)	無効数	合計 例数
母親	子どものことについて 話しあいますか	233 (61.3)	108 (28.4)	30 (7.9)	9 (2.4)	380 (100.0)	35	418
父親		190 (54.3)	124 (35.4)	32 (9.1)	4 (1.1)	350 (100.0)	30	380

- ④ (母親に) あなたが子どものことで何か気がかりなことや心配なことがある時、
 ご主人はあなたの話を聞いたり、相談のつてくれますか。

- (父親に) 奥様が子どものことで何か気がかりなことや心配なことがある時、
 あなたは奥様の話を聞いたり、相談のつていますか。

		してくれる ①	どちらかとい いとしてくれ る ②	どちらかとい うとしてくれ ない ③	してくれない ④	計 例数 (%)	無効数	合計 例数
母親	話を聞いてくれたり相 談のつてくれますか	246 (64.7)	100 (26.3)	27 (7.1)	7 (1.8)	380 (100.0)	35	418
父親		194 (55.4)	125 (35.7)	27 (7.7)	4 (1.1)	350 (100.0)	30	380

千賀他：2. 家庭養育機能と職業生活との両立に関する研究

(表I-4-1) あなたは、現在の暮らしの中で<自分自身をどのように>感じていますか。

① 対象全体--母親	非常に そう思う①	かなり そう思う②	ややそう 思う③	どちらとも 言えない④	ややそう 思わない⑤	かなりそう 思わない⑥	非常にそう 思わない⑦	計	平均得点 標準偏差
1 充実感がある	37(10.0)	95(25.7)	132(35.8)	58(15.7)	36(9.8)	9(2.4)	2(0.5)	369(100.0)	3.0 ± 1.2
2 楽しい	45(12.2)	102(27.6)	123(33.3)	69(18.7)	21(5.7)	6(1.6)	3(0.8)	369(100.0)	2.9 ± 1.2
3 ときめきを感じる ことがある	26(7.0)	40(10.8)	79(21.4)	120(32.5)	50(13.6)	36(9.8)	18(4.9)	369(100.0)	3.8 ± 1.5
4 空しい感じが する	6(1.6)	6(1.6)	47(12.7)	103(27.9)	78(21.1)	73(19.8)	56(15.2)	369(100.0)	4.9 ± 1.4
5 別の生き方を したいと思う ことがある	17(4.6)	26(7.0)	85(23.0)	66(17.9)	60(16.3)	58(15.7)	57(15.4)	369(100.0)	4.4 ± 1.7
6 変化がなく つまらない感 じがする	8(2.2)	16(4.3)	49(13.3)	80(21.7)	78(21.1)	67(18.2)	71(19.2)	369(100.0)	4.9 ± 1.5
7 自分に自信 がある	8(2.2)	19(5.1)	66(17.9)	147(39.8)	66(17.9)	38(10.3)	25(6.8)	369(100.0)	4.2 ± 1.3
8 自分は良い 素質があると 思う	8(2.2)	22(6.0)	68(18.4)	133(36.0)	76(20.6)	42(11.4)	20(5.4)	369(100.0)	4.2 ± 1.3
9 物事をうまく こなせない	9(2.4)	25(6.8)	67(18.2)	124(33.6)	80(21.7)	37(10.0)	27(7.3)	369(100.0)	4.2 ± 1.4
10 ダメな人間 だと思うこと がある	15(4.1)	25(6.8)	101(27.4)	90(24.4)	57(15.4)	49(13.3)	32(8.7)	369(100.0)	4.1 ± 1.5
合計例数：無効数-51 合計 418 例									

② 対象全体--父親	非常に そう思う①	かなり そう思う②	ややそう 思う③	どちらとも 言えない④	ややそう 思わない⑤	かなりそう 思わない⑥	非常にそう 思わない⑦	計	平均得点 標準偏差
1 充実感がある	36(11.3)	91(28.4)	121(37.8)	48(15.0)	17(5.3)	5(1.6)	2(0.6)	320(100.0)	2.8 ± 1.1
2 楽しい	34(10.6)	105(32.8)	117(36.6)	48(15.0)	11(3.4)	3(0.9)	2(0.6)	320(100.0)	2.7 ± 1.1
3 ときめきを感じる ことがある	22(6.9)	45(14.1)	82(25.6)	115(35.9)	37(11.6)	11(3.4)	8(2.5)	320(100.0)	3.5 ± 1.3
4 空しい感じが する	3(0.9)	2(0.6)	26(8.1)	82(25.6)	65(20.3)	83(25.9)	59(18.4)	320(100.0)	5.2 ± 1.3
5 別の生き方を したいと思う ことがある	10(3.1)	14(4.4)	55(17.2)	77(24.1)	42(13.1)	69(21.6)	53(16.6)	320(100.0)	4.7 ± 1.6
6 変化がなく つまらない感 じがする	3(0.9)	7(2.2)	29(9.1)	74(23.1)	69(21.6)	81(25.3)	57(17.8)	320(100.0)	5.1 ± 1.4
7 自分に自信 がある	19(5.9)	47(14.7)	93(29.1)	120(37.5)	25(7.8)	11(3.4)	5(1.6)	320(100.0)	3.4 ± 1.2
8 自分は良い 素質があると 思う	14(4.4)	39(12.2)	73(22.8)	143(44.7)	35(10.9)	7(2.2)	9(2.8)	320(100.0)	3.6 ± 1.2
9 物事をうまく こなせない	4(1.3)	11(3.4)	33(10.3)	110(34.4)	84(26.3)	50(15.6)	28(8.8)	320(100.0)	4.6 ± 1.3
10 ダメな人間 だと思うこと がある	6(1.9)	10(3.1)	38(11.9)	90(28.1)	54(16.9)	71(22.2)	51(15.9)	320(100.0)	4.9 ± 1.5
合計例数：無効数-60 合計 390 例									

(表I-4-2) あなたは、現在の暮らしの中で<自分自身をどのように>感じているか
× 夫の子育ての協力(クロス集計検定結果)

自分自身をどのように感じているか (母親の回答)	母親の回答	父親の回答
	夫の育児の協力は？ 1 協力的 2 どちらかというと協力的 3 どちらかというと協力的ではない 4 協力的ではない	あなたは子育てに協力的ですか？ 1 協力的 2 どちらかというと協力的 3 どちらかというと協力的ではない 4 協力的ではない
1 充実感がある	P<0.01 有意差あり	P<0.01 有意差あり
2 楽しい	P<0.05 有意差あり	P<0.01 有意差あり
3 ときめきを感じる	P<0.01 有意差あり	P<0.01 有意差あり
4 空しい感じがする	P<0.01 有意差あり	P<0.01 有意差あり
5 別の生き方をしたい	P<0.01 有意差あり	P<0.01 有意差あり
6 つまらない感じがする	P<0.01 有意差あり	P<0.01 有意差あり
7 自信がある	(-)	P<0.01 有意差あり
8 良い素質がある	(-)	P<0.01 有意差あり
9 物事がうまくこなせない	(-)	P<0.01 有意差あり
10 ダメな人間だと思う	(-)	P<0.01 有意差あり

(表II-1-1) 母親イメージの各項目の平均値の順位

NO	昔の母親イメージ	平均値	NO	母親としての自分のイメージ	平均値	NO	志向する母親イメージ	平均値	NO	社会が期待する母親イメージ	平均値
26	耐えることができる	1.866	3	現実的な	2.625	22	思いやりのある	1.689	22	思いやりのある	1.824
2	家族を支える	2.027	10	好奇心旺盛な	2.952	17	視野が広い	1.841	17	視野が広い	2.149
25	世話をする	2.055	2	家族を支える	2.968	16	感情表現の豊かな	2.003	4	包みこむような	2.157
22	思いやりのある	2.202	14	自分の考えを通す	3.013	4	包みこむような	2.026	23	頼もしい	2.292
4	包みこむような	2.213	25	世話をする	3.074	23	頼もしい	2.141	2	家族を支える	2.322
13	献身的	2.235	16	感情表現の豊かな	3.101	20	穏やかな	2.253	16	感情表現の豊かな	2.359
15	待つことができる	2.445	22	思いやりのある	3.253	2	家族を支える	2.274	20	穏やかな	2.370
23	頼もしい	2.598	9	保護的	3.295	8	決断力のある	2.313	12	社会の常識を重視する	2.395
9	保護的	2.653	27	共感的	3.298	1	素直な	2.358	26	耐えることができる	2.405
12	社会の常識を重視する	2.699	12	社会の常識を重視する	3.388	10	好奇心旺盛な	2.433	25	世話をする	2.416
29	従順な	2.869	26	耐えることができる	3.410	6	純粋な	2.480	8	決断力のある	2.497
3	現実的な	2.888	15	待つことができる	3.505	15	待つことができる	2.501	1	素直な	2.503
20	穏やかな	3.016	19	合理的	3.532	26	耐えることができる	2.580	5	しなやかな	2.532
6	純粋な	3.055	28	客観的	3.609	5	しなやかな	2.621	6	純粋な	2.546
1	素直な	3.079	11	論理的	3.636	27	共感的	2.632	13	献身的	2.584
7	厳格な	3.087	8	決断力のある	3.660	30	指導力のある	2.700	15	待つことができる	2.605
27	共感的	3.202	4	包みこむような	3.662	25	世話をする	2.739	3	現実的な	2.668
8	決断力のある	3.355	23	頼もしい	3.673	3	現実的な	2.914	27	共感的	2.673
5	しなやかな	3.544	13	献身的	3.697	28	客観的	2.953	30	指導力のある	2.814
16	感情表現の豊かな	3.582	17	視野が広い	3.697	9	保護的	2.979	9	保護的	2.816
18	依存的	3.689	6	純粋な	3.699	13	献身的	3.016	10	好奇心旺盛な	2.927
30	指導力のある	3.932	24	自己本位な	3.710	19	合理的	3.151	19	合理的	2.938
28	客観的	3.975	1	素直な	3.723	11	論理的	3.217	28	客観的	3.030
19	合理的	4.090	30	指導力のある	3.824	12	社会の常識を重視する	3.264	29	従順な	3.114
17	視野が広い	4.164	7	厳格な	3.941	7	厳格な	3.517	7	厳格な	3.141
14	自分の考えを通す	4.333	18	依存的	3.965	14	自分の考えを通す	3.548	11	論理的	3.205
11	論理的	4.399	20	穏やかな	3.965	29	従順な	3.603	14	自分の考えを通す	3.714
10	好奇心旺盛な	4.443	21	支配的	3.987	18	依存的	4.389	18	依存的	4.073
21	支配的	4.544	29	従順な	4.106	21	支配的	4.708	21	支配的	4.346
24	自己本位な	5.005	5	しなやかな	4.279	24	自己本位な	5.115	24	自己本位な	4.903

* 7段階スケール (1.非常にそう思う

2.かなりそう思う

3.ややそう思う

4.どちらとも言えない

5.ややそう思わない

6.かなりそう思わない

7.非常にそう思わない)

* NO -- 項目の配列順序

(表II-2-1) 父親イメージの各項目の平均値の順位

NO	昔の父親イメージ	平均値	NO	父親としての自分のイメージ	平均値	NO	志向する父親イメージ	平均値	NO	社会で期待する父親イメージ	平均値
2	家族を支える	1.929	2	家族を支える	2.510	2	家族を支える	1.799	2	家族を支える	1.939
14	自分の考えを通す	2.158	10	好奇心旺盛な	2.939	8	決断力のある	1.938	8	決断力のある	1.942
7	厳格な	2.298	3	現実的な	2.946	22	思いやりのある	1.972	17	視野が広い	1.981
12	社会の常識を重視する	2.422	14	自分の考えを通す	2.990	23	頼もしい	1.994	23	頼もしい	2.077
8	決断力のある	2.432	22	思いやりのある	3.134	17	視野が広い	2.006	22	思いやりのある	2.106
23	頼もしい	2.565	12	社会の常識を重視する	3.178	30	指導力のある	2.217	30	指導力のある	2.132
30	指導力のある	2.689	9	保護的	3.197	4	包みこむような	2.325	4	包みこむような	2.322
21	支配的	2.789	8	決断力のある	3.201	26	耐えることができる	2.474	12	社会の常識を重視する	2.486
26	耐えることができる	2.857	25	世話をする	3.242	16	感情表現の豊かな	2.542	16	感情表現の豊かな	2.543
3	現実的な	3.025	26	耐えることができる	3.271	10	好奇心旺盛な	2.567	3	現実的な	2.553
24	自己本位な	3.053	11	論理的	3.283	20	穏やかな	2.666	26	耐えることができる	2.559
22	思いやりのある	3.087	1	素直な	3.306	25	世話をする	2.712	25	世話をする	2.701
9	保護的	3.140	30	指導力のある	3.322	1	素直な	2.746	27	共感的	2.714
13	献身的	3.391	4	包みこむような	3.325	15	待つことができる	2.755	10	好奇心旺盛な	2.717
4	包みこむような	3.394	27	共感的	3.347	27	共感的	2.755	20	穏やかな	2.778
25	世話をする	3.450	28	客観的	3.417	6	純粋な	2.759	13	献身的	2.797
17	視野が広い	3.475	6	純粋な	3.420	7	厳格な	2.833	7	厳格な	2.801
6	純粋な	3.516	17	視野が広い	3.430	3	現実的な	2.836	15	待つことができる	2.817
11	論理的	3.537	23	頼もしい	3.436	12	社会の常識を重視する	2.876	11	論理的	2.855
27	共感的	3.733	15	待つことができる	3.439	28	客観的	2.960	1	素直な	2.884
28	客観的	3.758	16	感情表現の豊かな	3.455	13	献身的	2.963	6	純粋な	2.891
10	好奇心旺盛な	3.795	13	献身的	3.500	9	保護的	2.966	19	合理的	2.965
15	待つことができる	3.842	19	合理的	3.516	11	論理的	2.988	28	客観的	2.984
16	感情表現の豊かな	4.040	24	自己本位な	3.551	19	合理的	3.068	9	保護的	2.987
19	合理的	4.040	20	穏やかな	3.615	14	自分の考えを通す	3.102	5	しなやかな	3.042
1	素直な	4.062	7	厳格な	3.694	5	しなやかな	3.152	14	自分の考えを通す	3.389
20	穏やかな	4.127	21	支配的	3.799	29	従順な	3.678	29	従順な	3.582
29	従順な	4.183	29	従順な	3.895	18	依存的	4.096	18	依存的	4.039
18	依存的	4.289	5	しなやかな	3.904	21	支配的	4.142	21	支配的	4.090
5	しなやかな	4.671	18	依存的	4.016	24	自己本位な	4.511	24	自己本位な	4.569

7段階スケール (1.非常に そう思う 2.かなりそう思う 3.ややそう思う 4.どちらとも言えない 5.ややそう思わない 6.かなりそう思わない 7.非常に そう思わない)

*NO—項目の配列順序

(表Ⅱ-1-2) 各母親イメージの相関

	昔の母	自分自身	志向する母	社会の母
昔の母	1.00	0.17	0.49	0.67
自分自身		1.00	0.26	0.21
志向する母			1.00	0.94

注) 表中の数字は相関係数

注) 表中の項目について

- 昔の母 --- 昔の母親イメージ
- 自分自身 --- 母親としての自分自身の母親イメージ
- 志向する母 --- 将来、志向する母親イメージ
- 社会の母 --- 社会が期待する母親イメージ

(表Ⅱ-2-2) 各父親イメージの相関関係

	昔の父	自分自身	志向する父	社会の父
昔の父	1.00	0.55	0.32	0.29
自分自身		1.00	0.58	0.54
志向する父			1.00	0.97

注) 表中の数字は相関係数

注) 表中の項目について

- 昔の父 --- 昔の父親イメージ
- 自分自身 --- 父親としての自分自身の父親イメージ
- 志向する父 --- 将来、志向する父親イメージ
- 社会の父 --- 社会が期待する父親イメージ

千賀他：2. 家庭養育機能と職業生活との両立に関する研究

(表Ⅱ-3-1) <母親イメージ>--因子負荷量 (Varimax 回転後)

*下記の表の中の(-)について、各項目の平均得点で
<そうは思わない>とその項目を否定している場合は(-)と表示

① <昔の母親イメージ>

第1因子		第2因子	
26 耐えることができる	0.7247	17 視野が広い (-)	0.7476
23 思いやりのある	0.6728	30 指導力のある	0.6951
13 献身的	0.6031	10 好奇心旺盛な (-)	0.6310
15 待つことができる	0.5533	14 自分の考えを通す (-)	0.5939
20 穏やか	0.5525	8 決断力のある	0.5925
29 従順な	0.5277	16 感情表現の豊かな	0.5877
25 世話をする	0.5142	11 論理的な (-)	0.5841
4 包み込むような	0.5100	19 合理的 (-)	0.5592
寄与率	14.9898 %	寄与率	13.5788 %
累積寄与率	14.9898 %	累積寄与率	28.5685 %
『忍耐と包容性のある養育性』 イメージ因子		『非理性的な指導性』 イメージ因子	

② <母親としてのあなた自身の母親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
5 しなやかな (-)	0.7358	25 世話をする	-0.6835	8 決断力のある	-0.7034
20 穏やかな	0.7066	26 耐えることができる	-0.6756	30 指導力のある	-0.5712
6 純粋な	0.6029	13 献身的	-0.6426	23 頼もしい	-0.5542
4 包み込むような	0.5771				
1 素直な	0.5535				
寄与率	12.6708 %	寄与率	10.1298 %	寄与率	9.3619 %
累積寄与率	12.6708 %	累積寄与率	22.8006 %	累積寄与率	32.1625 %
『素直な包容性』 イメージ因子		『忍耐のある養育性』 イメージ因子		『決断力のある指導性』 イメージ因子	

③ <将来志向する母親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
6 純粋な	0.7537	21 支配的な (-)	-0.7869	8 決断力のある	-0.5586
1 素直な	0.6759	24 自己本位な (-)	-0.7620	23 頼もしい	-0.5579
4 包み込むような	0.6758	18 依存な (-)	-0.6380	17 視野が広い	-0.5441
5 しなやかな	0.6020	7 厳格な	-0.5366	30 指導力のある	-0.4862
13 献身的	0.4643				
22 思いやりのある	0.4533				
25 世話をする	0.4312				
寄与率	13.5115 %	寄与率	10.8118 %	寄与率	8.2991 %
累積寄与率	13.5115 %	累積寄与率	24.3233 %	累積寄与率	32.6224 %
『純粋で包容性のある養育性』 イメージ因子		『非支配的な厳格性』 イメージ因子		『社会性のある指導性』 イメージ因子	

④ <社会が期待する母親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
26 耐えることができる	0.7758	17 視野が広い	0.7287	24 自己本位な (-)	0.8151
13 献身的	0.7721	16 感情表現の豊かな	0.7123	21 支配的な (-)	0.7902
25 世話をする	0.7112	10 好奇心旺盛な	0.6783	18 依存な (-)	0.6663
15 待つことができる	0.6994	8 決断力のある	0.6505		
29 従順な	0.6320	30 指導力のある	0.6117		
20 穏やかな	0.6280	23 頼もしい	0.6027		
22 思いやりのある	0.5986				
4 包み込むような	0.5899				
6 純粋な	0.5793				
27 共感的	0.5602				
1 素直な	0.5600				
9 保護性	0.5094				
寄与率	20.0118 %	寄与率	16.1271 %	寄与率	8.6713 %
累積寄与率	20.0118 %	累積寄与率	36.1389 %	累積寄与率	44.8102 %
『忍耐と共感性のある養育性』 イメージ因子		『感性と社会性のある指導性』 イメージ因子		『非支配性』 イメージ因子	

(表Ⅱ-3-2)
① <昔の父親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
8 決断力のある	0.7750	19 合理的な (-)	0.6302	26 耐えることができる	0.5613
23 頼もしい	0.7587	10 好奇心旺盛な	0.6239	25 世話をする	0.5604
7 厳格な	0.7101	11 論理的な	0.5822	22 思いやりのある	0.5392
30 指導力のある	0.6951	17 視野が広い	0.5657	27 共感的	0.5289
2 家族を支える	0.5712	28 客観的	0.5320		
12 社会の常識を重視する	0.5503				
4 包み込むような	0.5258				
寄与率	15.1622 %	寄与率	10.6484 %	寄与率	9.3377 %
累積寄与率	15.1622 %	累積寄与率	25.8106 %	累積寄与率	35.1462 %
『強く厳しいが包容性のある指導性』 イメージ因子		『非合理的だが社会性のある理性』 イメージ因子		『忍耐のある養育性』 イメージ因子	

② <父親としてのあなた自身のイメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
30 指導力のある	-0.6909	13 献身的	0.6567	11 論理的	-0.6894
23 頼もしい	-0.6944	29 従順な	0.6053	19 合理的な	-0.6657
2 家族を支える	-0.6330	5 しなやかな	0.5657	28 客観的	-0.5577
8 決断力のある	-0.6002	20 穏やかな	0.5417	17 視野が広い	-0.5391
22 思いやりのある	-0.5470		0.5287		
4 包み込むような	-0.5286				
6 純粋な	-0.5078				
寄与率	14.5852 %	寄与率	12.6879 %	寄与率	8.1920 %
累積寄与率	14.5852 %	累積寄与率	27.2731 %	累積寄与率	35.4651 %
『強いが優しい包容性のある指導性』 イメージ因子		『従順な献身的』 イメージ因子		『社会性のある理性』 イメージ因子	

③ <将来、志向する父親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
23 頼もしい	0.7579	6 純粋な	0.6013	21 支配的 (-)	0.7176
8 決断力のある	0.7372	10 好奇心旺盛な	0.5889	24 自己本位な (-)	0.7068
2 家族を支える	0.6775	27 共感的	0.5183	18 欲求的な (-)	0.6709
4 包み込むような	0.6640	5 しなやかな	0.5166		
5 指導力のある	0.6556				
22 思いやりのある	0.6311				
寄与率	15.7928 %	寄与率	8.7571 %	寄与率	8.7528 %
累積寄与率	15.7928 %	累積寄与率	24.5499 %	累積寄与率	33.3027 %
『強いが優しい包容性のある指導性』 イメージ因子		『しなやかな共感性』 イメージ因子		『非支配的な中庸性』 イメージ因子	

④ <社会が期待する父親イメージ>

第1因子		第2因子		第3因子	
8 決断力のある	0.8150	15 待つことができる	-0.6684	6 純粋な	-0.6702
30 指導力のある	0.7587	26 耐えることができる	-0.6431	5 しなやかな	-0.6632
17 視野が広い	0.7396	13 献身的	-0.5743	1 正直な	-0.5582
23 頼もしい	0.6670	19 合理的	-0.5479	16 感情表現の豊かな	-0.5186
2 家族を支える	0.6521	27 共感的	-0.5184		
22 思いやりのある	0.6013	20 穏やかな	-0.5148		
7 厳格な	0.5186	28 客観的	-0.5109		
4 包み込むような	0.5109				
寄与率	17.8076 %	寄与率	12.0689 %	寄与率	9.9794 %
累積寄与率	17.8076 %	累積寄与率	29.8765 %	累積寄与率	39.8559 %
『厳格で社会性と包容性のある指導性』 イメージ因子		『忍耐と理性』 イメージ因子		『しなやかな感性』 イメージ因子	